

Yamakado News Letter



5月から取り組んできた生体捕獲にようやく成功



見事一発で麻酔薬を打ち込んだ國永さん（岐阜大）

10月16日、ようやくシカの生体捕獲に成功し、

GPS首輪を装着することができました。春から夏場にかけてこの湿原を利用してきたメスジカが、繁殖期から積雪期にどのような行動パターンをとるのか、GPS首輪が1時間ごとの位置を記録して知らせてくれることになっています。昨年11月に行った糞粒調査では、山門水源の森内のシカ頭数密度は43.7頭/1km²と非常に高い数値が出ました。しかしながらこの辺りは多い時は2mを超える積雪地域です。シカは積雪に弱いと言われています。そんなシカが冬場をどのように乗り切っているのか、その一端でも明らかになればと思います。

この取り組みに関連して、機材購入にセブンイレブン財団より助成を頂きました。また捕獲申請や実際の捕獲には森林総研関西支所の八代田さん、岐阜大学の森元さん、國永さん、愛知県衛生研究所の早川さんにお世話になりました。



麻酔で横になっている間に、GPS首輪を取り付け終えたところ。その後拮抗剤を打つと、すぐ立ち上がって走り去っていった。

この一月は事業続き

9月25日の山門水源の森現地交流会に始まり、26日は永原小全学年自然学習。30日はコケ調査。10月1日は県の森林イベント参加。4日から琵琶湖博物館新空間にて1カ月間の企画展示スタート。8日は琵琶湖博物館ホールにて山門水源の森2050シンポジウム開催。15日はJRハイキングと、大浦川堰堤にビワマス溯上用の魚道を設置等々、忙しく事業をこなす一カ月でした。

その合間を縫って、観察道の階段整備や土のうを使った路面整備、間伐材チップを散布して露出根の養生、湿原への砂流入を防ぐ浚渫作業などをコツコツ行っています。

10月2週目くらいから朝晩が肌寒くなってきました。湿原のネットパトロールをしていると、ネットの中で例年になくエゾリンドウの開花が目につきます。ネットの外側ではほとんど見られません。獣害の影響の有無がはっきり現れています。付属湿地や沈砂池付近ではツマグロヒョウモンがよく見られます。これも例年になく多いように思います。コース路面はホオノキの落ち葉で埋まるようになり、カズミザクラはほとんど葉を落としました。ブナの森では樹冠を見上げると随分と緑色が淡くなってきました。



琵琶湖学芸員林氏による講演 9月25日 西浅井公民館

photo by Itoh



チップ土のう詰め 9/23



守護岩を背にエゾリンドウ 10/14



現地交流会 9/25 photo by Itoh



ブナの樹冠 10/15



ビワマス用魚道設置 10/15



ミヤマウメモドキを背にナツアカネ
10/12